



## 冬になったら、 ご近所さん。

キタキツネは北海道ではお馴染みの野生動物です。アイヌの時代からいて、アイヌ語で「スマリ」「チロンヌプ」と呼ばれていたそうです。

キタキツネは、冬になると山から下りてきて家の近くをチョロチョロしているのを見かけます。この辺では、そんなに珍しいことではないですね。

これは、ある夜のことなんです。私が、家でくつろいでいると、外から何か聞こえてきたんです。

「ギヤーギヤー」と悲鳴のような、ガラガラした不思議な声。恐る恐る窓を開けてみると、いたのは一匹のキタキツネ。そう、あの声はキタキツネの鳴き声だったんです。

考えてみると、こんなに身近な動物なのに鳴き声なんて聞いたことなかったんですよね。なんとも言えない不思議な声でした。

「ウン、ウン、ウン」  
という鳴き声はどこからきたんでしょうね。

牛朱別川は19世紀の開拓時代から何度も洪水を起こしてきました。牛朱別川の洪水を石狩川へ分流させる水路として建設されたのが永山新川です。昭和59年の計画着手から、地域の理解と協力を得ながら、20年の歳月をかけ完成しました。地域に親しまれる川づくりをめざし、自然とのふれあいや地域との連携を柱に水辺空間を整備してきました。キタキツネは日本で北海道にしか生息していません、ホンドキツネに比べ体が、ひと回り大きのが特徴です。また、本土のキツネより出くわしやすく、観光客や北海道の人にも可愛がられています。しかし、むやみに餌をあたえるのはキツネのためにもよくありません。最近では餌をねだるキツネもいるようですが、若いキツネなどは、本来の狩りも上達せずに成長していくことになり、野生を失うことになってしまいます。

### 「バリアフリー」

永山新川は両側の緑地をなだらかなスロープ(傾斜)にし、車椅子やお年寄り、子供たちが安全に川岸までたどり着けるようになっています。

ななかまどの花言葉「安全」「慎重」「用心」

旭川開発建設部 旭川河川事務所